

児童の問題行動と家庭環境に関する研究

第一報 夫婦の調和度に関する調査

研究第七部 木田 市治, 平井 信義, 野田 幸江
高橋 種昭, 長谷川賀哉子, 関山 ひろみ
研究第九部 多勢 豊次

まえがき

児童の問題行動というものの背景としては多くの要因が考えられる。中でも家庭環境は特に重視されねばならぬもので、多くの研究が既になされている。しかし、そうした研究の多くは親子関係を中心にしたものであり、夫婦関係と児童の問題行動とを関連させた組織的な研究は殆んどなかったといえよう。

夫婦関係というものはその実態を把握するのに多くの困難を伴うため研究が少なかったともいえるが、何れにしても児童の問題行動を考える場合、夫婦関係というものが非常に重要な位置を占めるものである事は疑いえない。何故なら児童の性格形成を歪めるものとして、夫婦不和に原因を持つ両親の精神衛生の悪化などがその大きなものとして考えられるし、生活行動学習のモデルとしても、夫婦間の人間関係は大きな影響力を持つものとして考えられるからである。

戦後、わが国の家庭における夫婦の関係は、非常に変貌をとげ、封建的な夫婦のつながりは崩壊し、女性の地位の向上と相まって、民主的かつ平等な関係が夫婦の間に築かれつつある。しかし、夫婦相互間の相手に対する要求や期待には、戦前の夫婦関係にみられたような安定したものはみられず、互いに矛盾や食い違いが多いため、そこに多くの問題を惹起せしめている事は否定できない。

夫婦間の争いにしても、かつてのわが国の家庭においては、抑圧され、表面化する事なく過されて来た事の多くが、戦後の家庭では表面化し、顕在化するようになって来ている。

この様な不安定な夫婦関係の状態が、児童の生活に悪影響を及ぼし、彼等の性格を歪め、情緒生活を混乱させ、不安定なものにしているのである。

われわれの研究はこの様な現在の夫婦関係と児童の問題行動との関連をみることを目的とした一連の研究である。

研究目的

われわれは最初にならず夫婦関係というものは如何なるものであるか、その実体について考察を加えた。夫婦関係を規制しているものは何か、愛情、社会経済的要因、生理的要因などが如何に相互に働きあつて夫婦関係をつくっているかなどの問題について討議を重ねた。

そして、これらの問題を考えてゆくと、結局家庭とは何かという問題にさかのぼらざるをえなくなった。夫婦という関係は、家庭全体の中で捉えねばその正しい姿を把握することは困難なものであり、更にそれは家庭のみでなく、夫婦の現在の生活に関連をもつ地域社会や職場生活をはじめとして、結婚前各々が育った家庭など多くのものと結びつけて考えねばならぬ存在である。そこでわれわれは調査をするに当って、出来得る限り現在の夫婦関係の背景となる要因全てについて考えてゆく事にした。

しかし今回の調査は、研究の第一段階として、夫婦関係というものが質問紙法によりどの程度まで捉えられるか、調査方法の検討を目的としたものである。

調査方法

そこで次の段階として、どの角度から夫婦関係というものをみるかという事が問題になったわけであるが、結局こうした質問紙による調査では、本人が現在の生活を如何様に認識しているかをみる以外に方法がないという事になり、不満のある、なしという事から本人が自分達の現在の生活を如何様に感じているかについてみる事にした。つまり不満のない状態は調和している状態であるという事にしたわけである。

夫婦の調和を構成している要因としては、前述の如く多くの事が考えられるが、今回は、経済生活、生活習慣、価値観、家族や外部の人との人間関係、性、性格などについて考えた(別紙参照)。

夫に対する不満については、結婚を後悔する程のもの

別紙

おねがい

最近わが国の家族生活や夫婦生活は非常に近代化し、家庭における人々の生活にも大きな変化がみられます。この調査は、そうした家庭の中の夫婦の間におきる不満を調べ、将来の家庭のあり方について考えようとするもので、決して個人の生活を問題にするものではありませんからありのままにお答え下さい。

	年 令	最 終 学 歴	職 業
記 人 者 (妻)	才		
配 偶 者 (夫)	才		

結婚してからの年数

年 目

現在の子ども数

人

祖父母との同居 (生計を共にしているもの)

有 ・ 無

調 査 1

A 御主人の人格に対する感じの中で、該当するものにそれぞれ○印をつけて下さい。

<input type="checkbox"/>	やさしい	<input type="checkbox"/>	気むづかしい
<input type="checkbox"/>	人間味がある	<input type="checkbox"/>	頑固な
<input type="checkbox"/>	心が広い	<input type="checkbox"/>	理屈っぽい
<input type="checkbox"/>	安心できる	<input type="checkbox"/>	かたくなな
<input type="checkbox"/>	わかってくれる	<input type="checkbox"/>	相手のことを考えない
<input type="checkbox"/>	関心をもってくれる	<input type="checkbox"/>	犠牲を強いる
<input type="checkbox"/>	よく考えてくれる	<input type="checkbox"/>	にくらしい
<input type="checkbox"/>	信頼できる	<input type="checkbox"/>	心が狭い
<input type="checkbox"/>	助力してくれる	<input type="checkbox"/>	うるさい
<input type="checkbox"/>	いたわってくれる	<input type="checkbox"/>	妥協しない
<input type="checkbox"/>	あたたかい	<input type="checkbox"/>	けちな
<input type="checkbox"/>	思いやりがある	<input type="checkbox"/>	厳しい
<input type="checkbox"/>	頼もしい	<input type="checkbox"/>	細かすぎる
<input type="checkbox"/>	心がきれいな	<input type="checkbox"/>	不潔な
<input type="checkbox"/>	許してくれる	<input type="checkbox"/>	冷たい

B 御主人とあなたとの間の感情的な状態をあらわすものとして、該当するものにそれぞれ○印をつけて下さい。

<input type="checkbox"/>	なめらかな	<input type="checkbox"/>	ゴツゴツした
<input type="checkbox"/>	自然な	<input type="checkbox"/>	くい違う
<input type="checkbox"/>	愛情の通った	<input type="checkbox"/>	緊張した
<input type="checkbox"/>	融和のある	<input type="checkbox"/>	むずかしい
<input type="checkbox"/>	歩みよった	<input type="checkbox"/>	ぎこちない
<input type="checkbox"/>	すがすがしい	<input type="checkbox"/>	イライラさせられる
<input type="checkbox"/>	さっぱりした	<input type="checkbox"/>	とげこめない
<input type="checkbox"/>	問題のない	<input type="checkbox"/>	離れた
<input type="checkbox"/>	気持がいい	<input type="checkbox"/>	気持が通わない
<input type="checkbox"/>	かくしだてがない	<input type="checkbox"/>	よどんだ
<input type="checkbox"/>	くつろいだ	<input type="checkbox"/>	なじめない
<input type="checkbox"/>	明るい	<input type="checkbox"/>	しゃくにさわる
<input type="checkbox"/>	理解しあえる	<input type="checkbox"/>	呼吸が合わない
<input type="checkbox"/>	しっとりした	<input type="checkbox"/>	喜びあえない
<input type="checkbox"/>	抱擁しあえる	<input type="checkbox"/>	空々しい

調 査 2

普段の生活の中で御主人に対して各項目について不満を感じることがありますが、右側の答のうちから該当するところに○印をつけて下さい。

結婚を後悔する程の場合には「不満がある」に

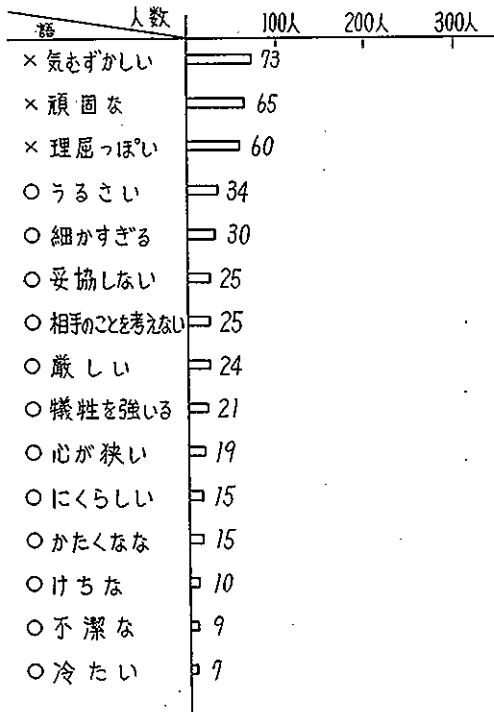
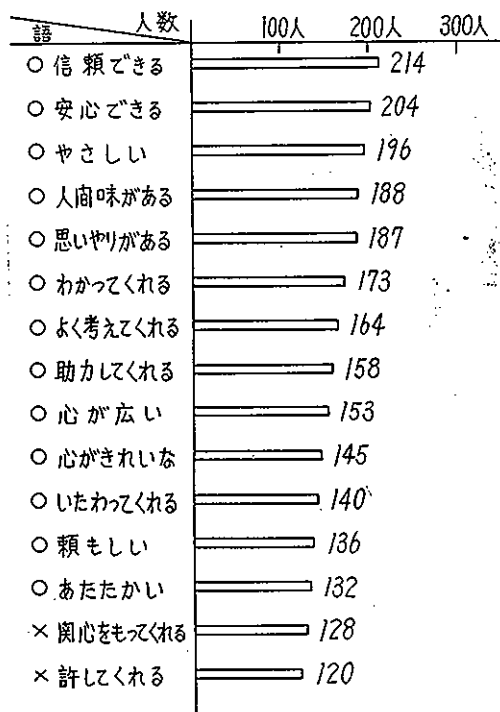
不満を感じていてもそれが我慢できる場合には「不満が少しある」に

特に気にならない場合には「不満がない」にそれぞれ○印をつけて下さい。

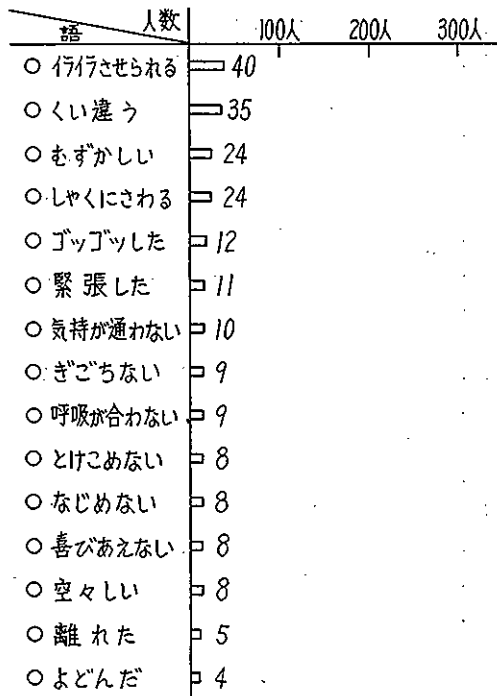
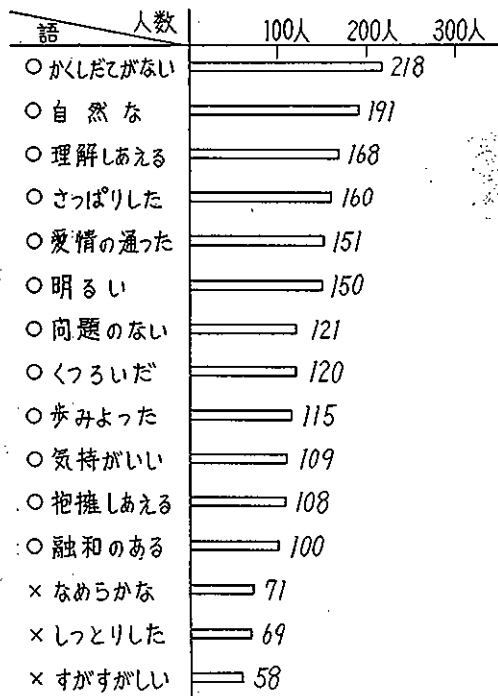
	不満が ある	不 満 が 少しある	不満が ない	
1. 夫の収入が少ないこと	_____	_____	_____	1
2. 夫が家計をまかせてくれないこと	_____	_____	_____	2
3. 夫のお金のつかい方	_____	_____	_____	3
4. 夫が食事に関して口うるさいこと	_____	_____	_____	4
5. 夫のために自分の睡眠が十分とれないこと	_____	_____	_____	5
6. 夫のだらしなさ	_____	_____	_____	6
7. 夫の無作法さ	_____	_____	_____	7
8. 夫があなたの友達づきあいに理解がないことについて	_____	_____	_____	8
9. 夫の友達づきあいについて	_____	_____	_____	9
10. 夫が酒を飲みすぎること	_____	_____	_____	10
11. 夫の娯楽の好みについて	_____	_____	_____	11
12. 夫の休日の過ごし方	_____	_____	_____	12
13. 夫がどこへも連れて行ってくれないことについて	_____	_____	_____	13
14. 性生活について	_____	_____	_____	14
15. 夫が妻の地位を低くみることにについて	_____	_____	_____	15
16. 夫の異性関係について	_____	_____	_____	16
17. 夫があなたに一方的であること	_____	_____	_____	17
18. 夫が信頼できないこと	_____	_____	_____	18
19. 夫の宗教に対する態度について	_____	_____	_____	19
20. 夫が日常生活の中でいたわりを示してくれない	_____	_____	_____	20
21. 夫の子どもに対するしつけについて	_____	_____	_____	21
22. 夫が子どもを育てることに協力してくれない	_____	_____	_____	22
23. 次の子どもを生むことについての夫の考えについて	_____	_____	_____	23
24. 夫の職業や地位について	_____	_____	_____	24
25. 夫が仕事のために家庭をかえりみないこと	_____	_____	_____	25
26. 妻が職業をもつことに対する夫の無理解について	_____	_____	_____	26
27. 夫の学歴について	_____	_____	_____	27
28. あなたの実家に対する夫の態度について	_____	_____	_____	28
29. あなたの姑の関係に対する夫の態度について	_____	_____	_____	29
30. 夫の容姿について	_____	_____	_____	30
31. 夫の身体があまり丈夫でないこと	_____	_____	_____	31
32. あなたが病気をした時に夫がいたわりを示してくれないこと	_____	_____	_____	32
33. 夫の性格について	_____	_____	_____	33

第1表

A項目群 (夫にたいするイメージ)



B項目群 (夫との間にたいするイメージ)



と、不満はあるが我慢出来る程度のものであるというように、不満の性質をはっきり限定してきいた。何故ならそうでないと、本人の持つ不満の内容が明確さを欠き、結果の考察にも客観性を欠くからである。

この様な質問紙による不満の調査と並行して調査Ⅰとして、夫に対する妻が持つイメージについての調査も同時に実施した。これはイメージというものを通じ結婚の相手に対する全体的を感じ方を知るためのものである。

(別紙参照)

イメージ調査に関する項目は別紙の如くであり、全体のイメージを把握するために肯定的なことばと否定的なことばを出来るだけ多く選び、相手に対するイメージと二人の関係に対するイメージの二種類のものを任意に配列した。

調査は埼玉県下の幼稚園3か所で行い、500名に質問紙を配布し、300名から回答をえた。

結果および考察

〔〇調査Ⅰ〕

(1) A項目群(夫にたいするイメージ)およびB項目群(夫との間にたいするイメージ)における肯定的な形容詞(かりに⊕語と呼ぶ)と、否定的な形容詞(かりに⊖語と呼ぶ)をそれぞれ得点順に並べた結果は第1表のとおりである。

さらに、A項目群の⊕語の中で、たがいに.2から.8の間の正の相関を有し、かつ⊖語のほとんどと負の相関を有するものに○印を、また⊕語の間ではたがいに.2から.6の間の正の相関を有しているが、⊖語とは負の相関をほとんど認められないものには×印をつけた。また、⊖語の中で、他の⊖語の多くと.8以上の正の相関を有するものに○印を、正の相関の比較的低いものに×印をつけた。

次に、B項目群の⊕語の中で○印のつけられたのは、たがいに他の⊕語と-.0から.9までに散らばった相関を有してはいるが、⊖語とはかなり低い相関しか認められないものである。また×印のものは、他の⊕語と正の相関は高いが、同時に⊖語とも.5から.9までの高い相関の認められるものである。⊖語の方は他の⊖語すべてと.8以上の正の相関を有しているの、すべてに○印がつけられた。

したがって、A項目群の⊕語の中、*「関心をもってくれる」*と*「許してくれる」*の2語、⊖語の中、*「気むづかしい」*、*「頑固な」*、*「理屈っぽい」*の3語、またB項目群の⊕語の中、*「なめらかな」*、*「しっとりとした」*、*「すがすがしい」*の3語は、それぞれ他の⊕語あるいは⊖語と異質なものであると思われる。

(2) A項目群とB項目群において、⊕語および⊖語にそれぞれチェックされた人数の分布は次の通りである(第2表)。これによると、⊕語により多くチェックされた人数の方が非常に多く、全体の300人中、A項目群においては271人、B項目群においては268人となる。

次に、⊕語全部につけたり、⊕語1個から5、6ないし7個の語(A、B両項目群とも)にチェックした人数が比較的多いことが認められる。

最後に、両項目群の中、○で囲んだ4人の場合は、調査2との関連を特に検討する必要があると考えられる。

〔〇調査Ⅱ〕

(1) 内容の分析

調査Ⅱは、妻が夫のどのような面に対し、不満をもっているのかを知ることにより両者の間の調和度を測らうとするものであり、且つそれに対する不満の有無で表現し得ると思われる側面を選び、それ等についての不満の度合を評価させたものである。

質問は、具体的な事実をあげてきているものもあれば、抽象的な概念をそのままの言葉できいているものもある等、質問の持つ性質は統一されていないが、それは、この調査を、あくまでも予備調査の段階のものと考えたからである。

例えば、経済的な側面は、問1、2、3に表わされる三つの不満をきくことによって、その殆んどをきくこと出来ると考えられたので、その全部を今回の質問紙の中に入れたが、性格の問題となると、それだけでも、更に多数の質問項目を作らねばならず、質問項目を増すことは、いたずらに回答者に与える条件の悪さを増すこととなり、この調査結果から、更に細かく分化させることによって、調和度の核心にふれ得るような質問と、そうでないものとの見当をつけることが今回の調査の大きな目的の1つであるとの考えから、あえて具体的でない抽象的な質問も、とりあげたわけである。

又、あきらかに、心理的な調和とはいえないようなもの、即ち経済上の問題等、むしろ心理的な不調和を生む原因とも考えられる問題を混在させた理由も、種々の面からの解答傾向を検討することにより、更にそのような理由が、心理的に不調和を生む要因となりうるものであるかどうか知りたかったからである。質問紙作製前の討議では、これ等の調査をして、たとえ1つの項目についてのみ不満ありと答えたものがあつたとして、その不満が異常に強いものであり、それが両者の調和に影響を与える決定的要因になれば、それは子どもの養育態度にも影響を与えるであろうし、逆に不満ありとした項目

第2表

A項目群 (夫にたいするイメージ)

⊖語数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
⊕語数	0	1	1	2	1	1										①
1	12	1														
2	8	13	2			2										
3	4	6	5		1							①				
4	10	5	4	4	1	1										
5	10	6	2	1												
6	6	3	1	1	1			1								
7	4	7	3	4	2											
8	6	8	2	3	1	1	1							1		
9	7	3	6	1		1										
10	6	2		2			1	1			1					
11	5	3	1	6	3						1					
12	5	2	1	1	2											
13	5	4	4	3	1											
14	2	5	5		2											
15	35	5	3								1					

B項目群 (夫との間にたいするイメージ)

⊖語数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
⊕語数	0	2	7	2	2	1										③
1	18	5	2				1									
2	23	5		2			1									
3	26	6	4													
4	25	5				1		1								
5	18		3													①
6	17	1	2					1								
7	12	2	2													
8	8	1	1													
9	9	1	1													
10	4	1	1		1	2										
11	5			1	1											
12	3			2	1											
13	4	2	2													
14	7	1	1													
15	38	1	1	1												

第3表 各質問項目別解答数及び百分率

		不満有(%)		不満少し有(%)		不満無(%)		無回答(%)	
1	夫の収入の少いこと	4	1.3	104	34.7	165	55.0	27	9.0
2	夫が家計をまかしてくれない	4	1.3	20	6.7	253	84.3	23	7.7
3	夫のお金のつかい方	8	2.7	61	20.3	228	76.0	3	1.0
4	夫が食事に関して口うるさいこと	11	3.7	51	17.0	235	78.3	3	1.0
5	夫のために自分の睡眠が十分とれないこと	7	2.3	51	17.0	240	80.0	2	0.7
6	夫のだらしなさ	9	3.0	68	22.7	216	72.0	7	2.3
7	夫の無作法さ	6	2.0	72	24.0	213	71.0	9	3.0
8	夫があなたの友達つき合いについて理解がないことについて	4	1.3	25	8.3	266	88.7	5	1.7
9	夫の友達つきあいについて	4	1.3	48	16.0	245	81.7	3	1.0
10	夫が酒を飲みすぎることについて	15	5.0	61	20.3	215	71.7	9	3.0
11	夫の娯楽の好みについて	10	3.3	66	22.0	218	72.7	6	2.0
12	夫の休日の過ごし方	13	4.3	112	37.3	169	56.3	6	2.0
13	夫がどこへも連れていってくれないことについて	15	5.0	70	23.3	205	68.3	10	3.3
14	性生活について	5	1.7	48	16.0	245	81.7	2	0.7
15	夫が妻の地位を低くみることにについて	5	1.7	44	14.7	237	79.0	14	4.7
16	夫の異性関係について	6	2.0	13	4.3	268	89.3	13	4.3
17	夫があなたに一方的であること	6	2.3	54	18.0	223	74.4	16	5.3
18	夫が信頼できないこと	3	1.0	24	8.0	252	84.0	21	7.0
19	夫の宗教に対する態度について	8	2.7	25	8.3	244	81.3	23	7.7
20	夫が日常生活の中でいたわりを示してくれない	4	1.3	77	25.6	208	69.3	11	3.7
21	夫の子どもに対するしつけについて	11	3.7	131	43.7	156	52.0	2	0.7
22	夫が子どもを育てることに協力してくれない	7	2.3	53	17.7	227	75.7	13	4.3
23	次の子どもを生むことについての夫の考えについて	10	3.3	29	9.7	238	79.3	23	7.7
24	夫の職業や地位について	3	1.0	48	16.0	245	81.7	4	1.3
25	夫が仕事のために家庭をかえりみないこと	3	1.0	53	17.7	233	77.7	11	3.7
26	妻が職業をもつことに対する夫の無理解について	4	1.3	34	11.3	233	77.7	29	9.7
27	夫の学歴について	1	0.3	45	15.0	249	83.0	5	1.7
28	あなたの実家に対する夫の態度について	8	2.7	46	15.3	238	79.3	8	2.7
29	あなたの姑の関係に対する夫の態度について	10	3.3	44	14.7	225	75.0	21	7.0
30	夫の容姿について	3	1.0	59	19.7	228	76.0	10	3.3
31	夫の身体があまり丈夫でないこと	6	2.0	41	13.7	234	78.0	19	6.3
32	あなたが病気をした時夫がいたわりを示してくれないこと	10	3.3	66	22.0	214	71.3	10	3.3
33	夫の性格について	12	4.0	107	35.7	177	59.0	4	1.3

第4表 不満の有無解答数の関係

		不 満 な し の 解 答 数																																	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	
不 満 あ り の 解 答 数	0										1				1	3		1	4	7	8	8	10	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	1												1		1	2		2	1		1		4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	2												1		1	2		2	1		1		4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	3													1		1			1				4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	4						1									1			1			1		4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11
	5															2		1						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11
	6																		1					4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11
	7																			1				4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11
	8																				1			4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11
	9																					1		4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11
	10																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	11																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	12																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	13																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	14																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	15																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	16																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	17																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	18																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	19																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	20																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	21																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	22																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	23																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	24																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	25																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	26																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	27																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	28																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	29																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	30																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	31																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
	32																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11	
33																						4	15	8	19	20	18	20	16	23	27	15	11		

第5表 不満ありのグループの問題別解答

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
a		○		×		×	×		×	○	×	×	×	○	○	×		
b			○		○			×		×	×	×			×	○	×	
c	○	○				○	○			○	○	○			×	○	×	
d	○		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
e	×	○	×		○	○	○		○	○	×	×			○	○	×	
f	○	○	○	○	○			×	×	×	×		○	○	○	○	×	
g		×	×	×	×	×	○					○		×		×	×	
h					×	×				×			×		○		○	
i	×	○			×	×		○		×				○		○		
計	不満なし	3	5	2	1	3	2	3	3	0	3	1	2	2	3	4	4	1
	不満あり	2	1	3	3	4	4	2	3	3	5	4	4	4	2	2	3	6

	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
a		×	○		×	×				×			×			×
b		○		×	×	×	○		○	○	○	○	○	○	○	×
c	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
d	×	×	×	×	×	×		×	×	○	×	×		×	×	×
e		○	×				○		×	○	○	○	○	○	×	
f	○	○		×		×	○	○	○	○	○	○	○			×
g		○	×				×		○	○	×	×		○	×	×
h		○				×	×	○	○					○	○	
i		○		×	×	○	○	○		○	×	○	○	○	×	×
計	不満なし	2	7	1	0	0	5	4	5	7	4	4	5	6	2	0
	不満あり	1	2	4	5	5	2	1	2	1	3	2	1	1	5	6

が多かったからといって、その夫婦がより少ない項目について不満ありと解答した夫婦より調和度を欠くといえることが出来るとは考えられず、この質と量の問題については、結論が出ず、むしろ、それ等のものが、今度の予備調査でどの様な形で出てくるかに期待した。しかし、確かにこの種の事柄において質と量に変換させることはむづかしいが、1つのものに決定的ともいえる不満があれば、不満はそれのみにとどまらず、他の多くの面でも不満を訴えるようになるのではないかの意見も出された。

いずれにしても、この予備調査段階の各質問項目の解答傾向は第3表に示す通りである。

全項目を通じて、不満なしと答えたものが回答者数の50%をわるものではなく、不満ありと答えたものが全体の5%をこえた項目はなかった。5%即ち、15名のものが離婚を考える程に不満を持っていると答えた項目は、問10の(夫が酒を飲みすぎることについて)、および、問13

の(夫がどこへも連れて行ってくれないことについて)の2項目である。しかし、この2項目は、不満ありと答えた者が多かったわりには、他の問題との相関関係(相関関係の項参照)は少ない。

又、問1(夫の収入の少ないこと)、問12(夫の休日の過し方)、問21(夫の子どもに対するしつけについて)および、問32(夫の性格について)の各項目では、他の項目にくらべ、少し不満ありと答えたものが全体の30%以上を占めている。

なお、同一人における、不満ありの数と不満なしの数との関係をあらわしたのが第4表である。

不満なしと答えた数が24以上のもので、不満ありと答えた数が2つ以上を出たものがないことは当然の結果であろうが、不満なしの数が、質問の約半数を占める14~18の者の中に、不満ありという解答をもしている者が多くなっていることは、夫婦関係の微妙さを物語るものであり、やはり数量的に扱うことのみで調和度を云々す

ることの危険を教えてくれると同時に、この辺りのこまかい分析が必要であろう。

更に、33項中その2割以上、即ち7項目以上に不満ありとした者は、全体の約3%を占める9名であり、その9名の者の各項目別解答は、第5表に示す通りである。

今かりに、この9名を、不満の数の多かったグループとして特徴づけると、表より問9（夫の友達つきあいについて）、問21（夫の子どもに対するしつけについて）、問22（夫が子どもを育てることに協力してくれない）、問32（あなたが病気をした時にいたわりを示してくれないこと）については、このグループの中で、不満なしと答えたものが1人もいないということは、9名中全員で何らかの不満をもっていたということが出来る。問9は、全体でみた時には、不満なしとしたものが全体81%を占めていたこと、又、問21、22はいずれも育児に関するものであることは注目されよう。特に、問21、22において、この様な結果が出たことは、いずれ調和度と幼児の問題行動との関係を考えて行く上で大きな問題となるろう。

なお、9人のうちの過半数が不満ありと答えた項目は、問10（夫が酒をのみすぎること）、問17（夫があなたに一方的であること）、問32（あなたが病気をした時、夫がいたわりを示してくれないこと）であり、ここに何らかの傾向を見出すことは出来ないが、性格の項目をのぞき（これにはあまりに多くの面を含んでいると思われるため）、かなり具体的な場面をあげての質問に不満が集まっているということは、これ又、今後、質問紙を改訂して行く上に考慮しなければならない問題を提起してくれたものであろう。

(四) 項目間の相関

調査Ⅱの質問紙の項目間の相関を示したのが第6表である。それをみると項目間にかなり相関の高いものと、殆んど孤立した項目とがある事が判る。

第6表から他項目との間に相関の高いものをみると、問11（夫の娯楽の好みについて）、問17（夫があなたに一方的であること）、問18（夫が信頼できないこと）、問20（夫が日常生活の中でいたわりを示してくれない）、問22（夫が子どもを育てることに協力してくれない）、問28（あなたの実家に対する夫の態度について）、問32（あなたが病気をした時に夫がいたわりを示してくれないこと）、問33（夫の性格について）などである。

この中で娯楽の好みに関する項目を除いて他の項目は、夫が妻に非協力的であるというものや、いたわりに欠け、信頼出来ぬというものである。以上の項目に比し夫の収入の少い事や家計をまかせてくれないこと、妻の

友達付き合いに対する理解不足、酒の飲み過ぎ、妻が職業を持つことに対する夫の理解のなさ、夫の健康状態に対する不満などは他項目との相関が低く、夫婦生活の調和を構成する一般的要因としては考えられぬものであるということがいえよう。そうしたものは特別な事例において大きな不満の源となるものと考えられる。

(イ) 同居、結婚年数、年令差、子ども数との関連

・同居の有無による違い

同居の有無と不満についてみると、問1と問13の二つの項目について有意な差がみられた。

問1（夫の収入の少ないことについて）の不満は核家庭の妻に不満を示すものが多く、問13（夫との外出の機会の少ないことについて）の不満は、同居の妻に大きな不満がみられる。

・年令差による違い

今回の調査では、年令差による妻の不満の差はみられなかった。

・結婚年数による違い

結婚年数による不満の差を、結婚10年以上経過したものと9年迄との夫婦について比較してみたところ、次の項目について有意の差がみられ、みな結婚年数の短いものが不満を多く示している。

問7 夫の無作法さ

問9 夫の友人付き合い

問28 妻の実家に対する夫の態度

問30 夫の容姿

・子ども数による違い

子どもを子ども1人と3人以上のものに分けて、その不満の差を調べてみたところ、次の一項目についてのみ差がみられ、子ども数の多い妻が不満を多く示していた。

問26 妻が職業をもつことに対する夫の無理解

おわりに

今回の研究は、調査目的の項でも述べた如く、夫婦の調和度というような複雑な人間関係を測定するに適切な質問紙の作製をめざしたものであり、その準備段階ともいえるのである。

結果は前述した如く、夫婦の調和というものは信頼、いたわりなどのことばで表わされる心理的調和のような性質のものと、経済、生活習慣などのように心理的調和とはいささか異なる次元に属するものから構成されていることが判った。しかし、われわれは夫婦の調和を構成する中心的なものとしては、あく迄も心理的調和を考え、今後引き続き、より客観的に、正確に調和状態を把握

第6表 項目間の相関

No.	項 目	No.	相関のある項目 (0.3以上をもって有意と見る)
1	夫の取人が少ないこと		なし
2	夫が家計をまかせてくれないこと		なし
3	夫のお金の使い方	9	夫の友達づきあいについて
		11	夫の娯楽の好みについて
		17	夫があなたに一方的であること
		33	夫の性格について
4	夫が食事に関して口うるさいこと	8	夫があなたの友達づきあいに理解がないことについて
		22	夫が子どもを育てることに協力してくれない
5	夫のために自分の睡眠が十分とれないこと	16	夫の異性関係について
		18	夫が信頼できないこと
		32	あなたが病気をした時に夫がいたわりを示してくれないこと
6	夫のだらしなさ	7	夫の無作法さ
		11	夫の娯楽の好みについて
		18	夫が信頼できないこと
		22	夫が子どもを育てることに協力してくれない
7	夫の無作法さ	6	夫のだらしなさ
8	夫があなたの友達づきあいに理解がないことについて		なし
9	夫の友だちづきあいについて	11	夫の娯楽の好みについて
		18	夫が信頼できないこと
		3	夫のお金のつかい方
10	夫が酒をのみすぎることにについて		なし
11	夫の娯楽の好みについて	3	夫のお金のつかい方
		6	夫のだらしなさ
		9	夫の友達づきあいについて
		12	夫の休日の過ごし方
		16	夫の異性関係について
		33	夫の性格について
12	夫の休日の過ごし方	11	夫の娯楽の好みについて
		13	夫がどこへも連れていってくれないことについて
		21	夫の子供に対するしつけについて
13	夫がどこへも連れていってくれないことについて	12	夫の休日の過ごし方
14	性生活について	15	夫が妻の地位を低くみることにについて
		17	夫があなたに一方的であること
		18	夫が信頼できないこと
15	夫が妻の地位を低くみることにについて	14	性生活について
		17	夫があなたに一方的であること
		20	夫が日常生活の中でいたわりを示してくれない
		28	あなたの実家に対する夫の態度について

No.	項 目	No.	相関のある項目 (0.3以上をもって有意と見る)
16	夫の異性関係について	5	夫のために自分の睡眠が十分とれないこと
		11	夫の娯楽の好みについて
		17	夫があなたに一方的であること
		18	夫が信頼出来ないこと
17	夫があなたに一方的であること	3	夫のお金のつかい方
		14	性生活について
		15	夫が妻の地位を低く見ることにについて
		16	夫の異性関係について
		18	夫が信頼出来ないこと
		20	夫が日常生活の中でいたわりを示してくれない
		22	夫が子どもを育てることに協力してくれない
		28	あなたの実家に対する夫の態度について
		32	あなたが病気をした時に夫がいたわりを示してくれないこと
		33	夫の性格について
18	夫が信頼できないこと	4	夫が食事に関して口うるさいこと
		5	夫のために自分の睡眠が十分とれないこと
		6	夫のだらしなさ
		9	夫の友達づきあいについて
		14	性生活について
		16	夫の異性関係について
		17	夫があなたに一方的であること
		20	夫が日常生活の中でいたわりを示してくれない
		22	夫が子どもを育てることに協力してくれない
		28	あなたの実家に対する夫の態度について
		29	あなたの姑の関係に対する夫の態度について
		32	あなたが病気をした時に夫がいたわりを示してくれないこと
		33	夫の性格について
19	夫の宗教に対する態度について	23	次の子どもを生むことについての夫の考えについて
20	夫が日常生活の中でいたわりを示してくれない	15	夫が妻の地位を低く見ることにについて
		17	夫があなたに一方的であること
		18	夫が信頼出来ないこと
		22	夫が子どもを育てることに協力してくれない
		32	あなたが病気をした時に夫がいたわりを示してくれないこと
		33	夫の性格について
21	夫の子どもに対するしつけについて	12	夫の休日の過ごし方
		22	夫が子どもを育てることに協力してくれない
		33	夫の性格について
22	夫が子どもを育てることに協力してくれない	4	夫が食事に関して口うるさいこと
		6	夫のだらしなさ
		15	夫が妻の地位を低くみることにについて
		17	夫があなたに一方的であること

No.	項 目	No.	相関のある項目 (0.3以上をもって有意と見る)
		18	夫が信頼出来ないこと
		21	夫の子どもに対するしつけについて
		25	夫が仕事のために家庭をかえりみないこと
		28	あなたの実家に対する夫の態度について
		32	あなたが病気をした時に夫がいたわりを示してくれないこと
		33	夫の性格について
23	次の子どもを生むことについての夫の考えについて	19	夫の宗教に対する態度について
24	夫の職業や地位について	27	夫の学歴について
		28	あなたの実家に対する夫の態度について
		33	夫の性格について
25	夫が仕事のために家庭をかえりみないこと	22	夫が子どもを育てることに協力してくれない
26	妻が職業をもつことに対する夫の無理解について		なし
27	夫の学歴について	24	夫の職業や地位について
28	あなたの実家に対する夫の態度について	15	夫が妻の地位を低く見るこについて
		17	夫があなたに一方的であること
		18	夫が信頼できないこと
		22	夫が子どもを育てることに協力してくれないこと
		24	夫の職業や地位について
		29	あなたの姑の関係に対する夫の態度について
		30	夫の容姿について
29	あなたの姑の関係に対する夫の態度について	18	夫が信頼できないこと
		28	あなたの実家に対する夫の態度について
30	夫の容姿について	28	あなたの実家に対する夫の態度について
		33	夫の性格について
31	夫の身体があまり丈夫でないこと		なし
32	あなたが病気をした時に夫がいたわりを示してくれないこと	5	夫のために自分の睡眠が十分とれないこと
		17	夫があなたに一方的であること
		18	夫が信頼出来ないこと
		20	夫が日常生活の中でいたわりを示してくれない
		22	夫が子どもを育てることに協力してくれない
		30	夫の容姿について
33	夫の性格について	3	夫のお金の使い方
		11	夫の娯楽の好みについて
		17	夫があなたに一方的であること
		18	夫が信頼出来ないこと
		20	夫が日常生活の中でいたわりを示してくれない
		21	夫の子どもに対するしつけについて
		22	夫が子どもを育てることに協力してくれない
		24	夫の職業や地位について
		30	夫の容姿について
		32	あなたが病気をした時に夫がいたわりを示してくれないこと

することの可能な質問の作製に努め、次の段階としてそ 定である。
れらのものと児童の問題行動との関連を明らかにする予

Study on Problem Behaviors of Children and Family Environment Report I - Study on Compatibility between Husband and Wife

Dept. 7 Ichiji Kida, Nobuyoshi Hirai, Yukie Noda
Taneaki Takahashi, Kayako Hasegawa
Hiromi Sekiyama
Dept. 9 Toyoji Tase

It is natural to think that the conjugal relations should exert a great influence upon their children's lives, but up to now hardly any systematic study has been made connecting the conjugal relations with the problem behaviors of children.

We, therefore, planned to make a series of investigation to probe the connection between the conjugal relations and the problem behaviors of children, which will be attended with many difficulties in inquiring and surveying the actual status of the matter.

The present investigation is the first step toward the planned series, and aims at devising the questionnaire to know the compatibility between husband and wife: Investigation I consists of some question items to know the whole image of the husband, and Investigation II consists of some questions to ask the unsatisfactory points of the husband. These two kinds of questionnaire were distributed to 500 mothers of the children of 4 kindergartens in the neighborhood of Tokyo City, and answered by 300 mothers.

As the result of the present investigation, it was found that although social and economical factors, differences in various life habits and many other factors contribute to constitute the congruity of husband and wife, psychological and emotional link between husband and wife seemed the crucial factor of their compatibility.

Accordingly, we are to scrutinize the contents of the present questionnaire to make out more elaborated one which will enable us to take an objective and correct measure of psychological congruity between husband and wife.